



世界レベルの 1on1 ブレイキンバトル「Red Bull BC One Cypher Japan 2024」

優勝は B-Boy NORI、B-Girl MiMz

Red Bull Dancer の Shigekix、Ami が Red Bull BC One に対する熱い思いを語る

「Red Bull BC One Special Talk Session」も開催



Suguru Saito / Red Bull Content Pool

B-Boy NORI と B-Girl MiMz が優勝！

レッドブル・ジャパン株式会社は、世界レベルの 1on1 ブレイキンバトル「Red Bull BC One」（レッドブル・ビーシー・ワン）の国内優勝者を定める「Red Bull BC One Cypher Japan 2024（レッドブル・ビーシー・ワン・サイファー・ジャパン）」を7月7日（日）に開催しました。

全 24 名の B-Boy・B-Girl が日本代表の座をかけて熱い戦いを繰り広げ、見事 B-Boy NORI と B-Girl MiMz（ミームス）が優勝を飾りました。B-Boy NORI は、2021 年以來 3 度目の「Red Bull BC One Cypher Japan」優勝、B-Girl MiMz は 2019 年の「Red Bull BC One World Final 2019」でベスト 4 という功績を持つ中で、今回見事ジャパンチャンピオンに輝きました。

優勝者の 2 名は、12 月上旬にブラジル・リオデジャネイロで行われる「Last Chance Cypher」の出場権を獲得。各国の優勝者たちと 12 月 7 日（土）に同じくブラジル・リオデジャネイロで行われる世界大会「Red Bull BC One World Final 2024（レッドブル・ビーシー・ワン・ワールドファイナル）」の出場権をかけて戦います。

Red Bull Dancer の Shigekix、Ami が Red Bull BC One とブレイキンへの愛を語りつくす

「Red Bull BC One」をさらに盛り上げるべく、Cypher Japan の前には、メディア向けに特別トークセッション「Red Bull BC One Special Talk Session」を開催。Red Bull Dancer の B-Boy Taisuke、B-Boy Shigekix、B-Girl Ami、日本ダンススポーツ連盟理事 ブレイクダンス本部長の B-Boy KATSU ONE が登壇し、「Red Bull BC One」の魅力やブレイキンの歴史に関してたっぷり語りました。

Shigekix は「常に Red Bull BC One とともに歩んできたブレイキン人生だった」と語り、Ami は「Red Bull BC One は、多くの B-Boy、B-Girl が目指す憧れの場所」とコメントするなど、Red Bull BC One やブレイキンへの愛やリスペクトのこもった熱い 1 時間となりました。

【Red Bull BC One Cypher Japan 2024 大会レポート】

全 5 箇所で開催された「Red Bull BC One City Cypher」の優勝者 10 名（B-Boy / B-Girl 各 5 名）と、今年から新たに開催された 2 つの学生予選「Red Bull BC One Student Cypher」の勝者（B-Boy 2 名）、「THE JAM」優勝者 2 名（B-Boy / B-Girl 各 1 名）、さらに招待選手 10 名（B-Boy 8 名 / B-Girl 2 名）の計 24 名が出場。

アーカイブ URL : <https://www.youtube.com/live/mgbYr02-aa4?si=dXO6jME1p6CcxH9A>

B-Boy（出場者数：計 16 名）

決勝では過去に「Red Bull BC One Cypher Japan」でも優勝経験のある B-Boy NORI と、他大会でも優勝など実績を積んでいる、B-Boy haruto との実力者同士の対決となりました。決勝のみ 3 ラウンド制で、まずは haruto から先攻で仕掛けると、軽やかなステップとパワームーブで会場を盛り上げると共に、見事なフリーズを披露し得意のフィジカルの強さを示しました。それに対し NORI も負けじとダイナミックなパワームーブと見事なフリーズを披露。正面からぶつかり合う熱い大激戦の中、B-Boy NORI が「Red Bull BC One Cypher Japan 2024」の優勝を飾りました。

B-Boy NORI コメント

今回優勝するつもり挑んだので、実際に優勝できてホッとしています。手ごたえも余裕も自分の中ではありました。力を発揮できたら、十分に優勝できるといった思いが強かったです。今回のバトルで勝てたのも、どのダンサーよりも自分がダンスのことを好きという気持ちの強さが勝ちにつながったと思います。また、相手とのコミュニケーションに対してキャッチボールができたことも勝利の要因かなと。

「Red Bull BC One Last Chance Cypher」はあくまでも通過点で、むしろ、その先の「Red Bull BC One World Final」に向けて頑張っていきたいです。World Final では、何度目かの正直を今年こそは頑張っ叶えたいです。それぞれバトルの楽曲を聞いた上で、遊び心があり、見ていて楽しくなるようなムーブができればいいと思っています。非常に大きな大会ではありますが、だからといって点数にならないようなことをやらないとかではなく、点数は関係なしに“遊び心がある”、“見ていて楽しい”と思うようなやり取りができればいいなと思います。



Jason Halayko / Red Bull Content Pool

B-Girl (出場者数 : 計 8 名)

B-Girl の決勝は、「Red Bull BC One World Final」常連の B-Girl Ayumi と、同じく「Red Bull BC One World Final」に出場経験のある MiMz が激突。最初はお互い様子を伺いながら牽制していた中、先攻で Ayumi がムーブを披露。Ayumi らしい細かな足さばきにパワームーブを混ぜたオリジナリティのあるムーブを展開。さらに、得意の頭を使った側転を披露し会場を沸かせました。それに対し、MiMz は細かい足さばきで魅せつつ、彼女が得意とするス6 マートなシルエットを意識したスタイルを披露。そして、サークル内を回り外を覗くような動きから、彼女の十八番である綺麗な“1990 (ナインティ)”を決め、緩急をつけたムーブで会場を盛り上げました。

B-Girl MiMz コメント

全て出し切れたといわれたら 100%ではないのですが、自分の持っているスタイルと合わせて、良い形で全てを出し切った気持ちはあります。結果よりもすべての過程に対して自分にもありがとうございますし、周りにも助けてくれてありがとうございますという気持ちが強いです。今回は目指すべきタイトルがあったので、周りにも支えられながら、上手く仕事と子育てのバランスをとり、練習に専念することができました。

決勝では、結果は気にせず自分が持っているもの全てを出し切るといったことにこだわりました。

諦めずに全部出したいものを全部出すといった点で、それを叶えられたのが自分の中で達成感を得ることができ、正直自分でもこの結果は信じられなかったです。

決勝の2ラウンド目のムーブでは、片手で回る“1990”という10代の頃からの十八番のムーブを披露したのですが、決勝の舞台上で、100%の完成度で披露できたことは私の誇りです。女性らしさをダンスに混ぜながら踊るという自分の持ち味に加えて、レッグワークや折り紙スタイルといった得意なスタイルを組み合わせながらスタイルを磨きました。「Red Bull BC One Last Chance Cypher」ではどんな相手が来てもかかってこいじゃないですが、ダンスのスキル面だけではなく、メンタルも含めて試行錯誤をして Red Bull BC One World Final に臨みたいと思います。



Suguru Saito / Red Bull Content Pool

B-Girl Ami が人生初めてのジャッジに、さらに鎮座 DOPENESS がゲストライブで会場を沸かせる

過去に2度「Red Bull BC One World Final」で世界一に輝いた Red Bull Dancer の B-Girl Ami が「Red Bull BC One Cypher Japan 2024」のジャッジとして登場。さらに、日本を代表する唯一無二のラッパー、鎮座 DOPENESS がゲストライブに出演。会場を一気に Red Bull BC One の世界観に引き込みました。



Jason Halayko / Red Bull Content Pool



Suguru Saito / Red Bull Content Pool

【Red Bull BC One Special Talk Session レポート】

B-Boy、B-Girl にとって Red Bull BC One とは？

2度の世界王者の経験を持つ B-Girl Ami は「B-Boy、B-Girl はもちろんですが、他のジャンルのダンサーも見ていて、多くの B-Boy、B-Girl がそのステージに立ちたいと目指している大会」と語りました。また、B-Boy Shigekix は「僕自身も Red Bull BC One を小さい時から意識し、夢の舞台としてプレイキンをやってきた。初出場のアムステルダムの経験が糧となり、2 回目に出場した 2020 年には優勝することもできた。常に Red Bull BC One とともに歩んできた自分のプレイキンライフだった。」と、自身が最年少優勝した「Red Bull BC One World Final 2020」の思い出を振り返りました。

他の国と日本のプレイキンシーンの違いについて

現在、多くの大会で日本選手が優勝を飾るなど、世界における日本選手の活躍が目覚ましいことに対し、B-Boy Shigekix は「日本のプレイキンシーンは、上の世代が築き上げたことを下の世代への伝承に積極的なことが素晴らしいと海外の方からよく言われます。海外トーナメントで日本人の B-Boy、B-Girl が優勝できることも素晴らしいですが、その背景には国内でのプレイキンシーンの発展や継承があると思います。」と他の国と日本のプレイキンシーンの違いに対しコメント。

プレイキンのカルチャー的側面とスポーツ的側面について

日本ダンススポーツ連盟理事 ブレイクダンス本部長の B-Boy KATSU ONE は、「実際にやってみると、競技のルールはそこまで変わらないと感じました。ダンススポーツになると競技の基準ができますが、カルチャーは主観で判断されるように考えていました。とはいえ、ダンススポーツで勝ち上がる人が、カルチャーのプレイキンでも勝ち上がるので、ダンススポーツもカルチャーも深く考えてみると同じようなことかなと考えています。違いとして、プレイキンカルチャーは、仲良

くコミュニティが深まり、審査員も含めてみんなで一つになってシーンを盛り上げますが、ダンススポーツは異なるので寂しいなという思いもあります。」とスポーツ、カルチャーの両側面におけるブレイキンに関して話しました。

互いにブレイキンダンサーとして尊敬できることは？

最後は、4名がそれぞれダンサーとして尊敬できることを発表。B-Boy Taisuke は、B-Girl Ami の尊敬できるところを「マジで頑固」と即答。「本当に笑えるくらい頑固なところが Ami の良さ。人から言われたことに対して自分の意見を曲げないといけないこともあるが、基本的に曲げない。それが Ami のスタイルで、教えていたタイミングから未だに変わらない。逆にそれは尊敬する。普通だったら色々な先輩に揉まれるところだが、頑固であり続けているところです。」と2人の師弟関係も垣間見えるエピソードを明かしました。一方、B-Boy Shigekix の尊敬できるところについて、B-Boy KATSU ONE は「物事に取り組む姿勢。ブレイキンだけでなく、ライフスタイル全体で、全てパーフェクトにやるという姿勢にいつも影響されています。」と回答。そんな B-Boy Shigekix は、B-Boy Taisuke について「人に夢を与えるパワーがあるところ。僕自身が Taisuke 世代で、僕はブレイキンを始めた時からヒーローとして背中を追っていて、こんな可能性を見せてくれるんだ、自分もいつかあのステージに立てるんじゃないかな。と夢や希望を抱いていたし、僕の活動を見て育っていく下の世代も少なからず Taisuke さんの姿が宿っていると思う。」と尊敬の念とともに、ブレイキンカルチャーが伝承される背景を語りました。

B-Boy Shigekix、B-Girl Ami がブレイキンの思い出のムーブを披露

B-Girl Ami は「ブレイキンってパワームーブやフリーズだと思われがちだが、細かい流れやちょっとしたこだわりの積み重ねでできていることが多い。フロアの動きの中でも高さとか強弱を出すことによって、それがサプライズになったりダイナミックさにつながるの、そういうものを意識して自分の動きをつくっている」と自身のムーブのこだわりを語りました。

また B-Boy Shigekix は、7歳の時に作った「時計の秒針がカチカチと時を刻むこと」をイメージして作ったムーブを披露し、「とても思いを込めているムーブで、未だバトルで使う。」と話しました。



【ヒップホップカルチャーの魅力を伝える「Red Bull BC One Camp」も大盛況】

7月5日（金）・6日（土）には、様々なバトルコンテンツやワークショップを行う「Red Bull BC One Camp」を開催。日本のみならず海外からも多くの B-Boy、B-Girl が集まり、総勢約 500 名のダンサーが参加しました。

Red Bull Dancer/RUSH BALL の Kyoka や、「BATTLE OF THE YEAR 2022 WORLD FINAL」で優勝した THE RUGGEDS の一員 GRIIMSEN によるワークショップを開催。会場を埋め尽くすほどのダンサーが集まり、大好評に終わりました。

ブレイキンの基礎の一つでもある“フットワーク”を学ぶワークショップでは、まだブレイキンを始めて間もないダンサーや、ブレイキンに触れたことがない初心者が数多く参加。ワークショップ終了時には皆さんブレイキンへの関心や熱がより一層強くなったようでした。

また、5つのバトルコンテンツも開催し、各地の B-Boy・B-Girl による熱い戦いが繰り広げられました。

ヒップホップカルチャーへのリスペクト、魅力が詰まった2日間となり、ヒップホップを愛する多くのダンサーたちで大盛況のうちに幕を閉じました。



Suguru Saito / Red Bull Content Pool

【Red Bull BC One とは】

Red Bull BC One は今年で開催 21 回目を迎えるレッドブルが開催する世界レベルの 1on1 ブレイキンバトルです。レッドブルはブレイキンに 20 年以上の歴史と伝統があり、世界 30 ヶ国以上で予選とプログラムを行い、イベントやワークショップなどを通じて、世界最高峰の才能豊かなダンサーを輩出しています。毎年、何千もの B-Boy / B-Girl 達が Red Bull BC One に挑戦し、選ばれし B-Boy / B-Girl 各 16 名のみが Red Bull BC One World Final の舞台に立ちます。Red Bull BC One World Final 2024 は、12 月 7 日（土）にブラジルを象徴するリオ・オリンピック・アリーナで開催予定です。

- ・Red Bull BC One 公式ページ：<https://www.redbull.com/jp-ja/event-series/bc-one>
- ・Red Bull BC One Cypher Japan 2024 公式ページ：<https://www.redbull.com/jp-ja/events/redbull-bc-one-cypher-japan>
- ・Red Bull BC One Instagram 公式アカウント：<https://www.instagram.com/redbullbcone/>

<Red Bull BC One オフィシャルグローバルパートナー>



Reebok International Limited

<Red Bull BC One Cypher Japan 2024 決勝パートナー>



三菱自動車工業株式会社



SEIKO 5 SPORTS

【Red Bull BC One Cypher Japan 2024 大会の様子】



Jason Halayko / Red Bull Content Pool



Suguru Saito / Red Bull Content Pool



Suguru Saito / Red Bull Content Pool



Jason Halayko / Red Bull Content Pool